日本協同教育学会 会員向けニューズレター

JASCE NEWS

学会ホームページ http://jasce.jp

057号(2020年8月28日)

目次

COVID-19後の新しい時代を共に切り拓く −通信による総会と理事会の報告を兼ねて−
第17回全国大会開催校からの便り
「オンライン協同学習カフェ」を開催します
学会刊行物の引用に関して
『協同と教育』への投稿募集中
学会ワークショップについて
各地の研究会・勉強会
出版情報
ショートレター(会員からの投稿記事)

COVID-19後の新しい時代を共に切り拓く −通信による総会と理事会の報告を兼ねて−

まだまだCOVID-19禍が続いています。教育に携わる会員がほとんどを占める本学会員の皆様におかれましては、COVID-19禍に加え、梅雨末期の豪雨やその後の猛暑にもかかわらず、日々、教育指導に奮闘されており、休みも思うように取れない状況が続いているのではないかと案じています。呉々もご自愛くださいますよう、お願い申し上げます。

COVID-19が人類におよぼした功罪についての総括は後世の人びとに任せ、COVID-19禍の真っ只中にいる私たちは、いま置かれた状況下で何ができるか、仲間と共に考え、実践し、新たな時代を共に切り拓いて行きたいと思います。後世の人びとから「災い転じて福となす」の好例として私たちの活動が評価されることを期待しています。

今回のCOVID-19禍からもわかるように、世の中は実に移ろいやすいものです。次に何が起こるか予想もつきません。まったく先行きが読めない不確定な社会といえます。世紀の変わり目に、20世紀は不確定な時代であったが、21世紀はさらに不確定が増すと予想した研究者がいました。まさにその通りの展開です。今後、確定的な世の中に戻ることはまずありません。ますます不確定になる社会を、私たち自身が如何に生きていくべきか、そして不確定な社会を生き抜く力をもった子ども達をいかに育てるべきか、私たちに与えられた大きな課題といえます。

この課題に対して、私たちは協同の原理を中核に据えた協同教育の観点から取り組んできた長い歴史を持っています。そして多くの実証的知見と有効な実践方法の蓄積があります。確かに、3密が危惧される今回のCOVID-19禍は協同教育にとってかつてない手強い難問ではありますが、必ずやブレイクスルーできると信じています。会員の皆さんの叡知を結集して、新しい時代の協同教育を展開していきたいと考えています。

COVID-19禍において学会の活動は大きな制約を受けています。今年度の全国大会やワークショップなど、対面を前提とした企画はすべて延期ないしは中止となっています。また、会員が主体的に開催してきた各地の勉強会も中止を余儀なくされ、新たな形態での開催を模索している状況です。

このような状況下において、毎年、全国大会と同時に開催していた「総会」を「通信による総会」に切り替え、6月23日(火)から7月24日(金)の期間に実施しました。その結果を受け、7月25日(土)に「通信による理事会」を開催しました。本理事会においては「通信による総会」での決議内容を確認し、確定しました。その内容は次の3点です。

議案1. 2019年度決算および2020年度予算案の承認
議案2. 会費値上げの承認(1,000円値上げによる会費5,000円の確定)
議案3. 会則及び細則の一部改訂の承認(現行の不備・不足の改訂)

この3件の議案をすべてお認めいただき、お礼申しあげます。

議案2の会費値上げについては、学会創設以来初めての値上げとなりました。会費は、予算書にあるように、総会のほか、学会誌やニューズレター、学会編集の刊行物、さらには学会運営などに活用させていただいています。会員の皆様からお預かりしている大切な会費を最大限有効に活用し、むやみに会費の値上げに頼ることのないよう、これからも努力する所存です。なお、会費の値上げは来年

JASCE

度からです。

総会議決の確認に加え、7月25日（土）の理事会では、2020年度下半期の活動に向け、各委員会から活動報告および検討事項の提案がありました。各委員会とも、これまでの通常の業務に加え、COVID-19禍の中での新たな会員サービスのあり方について鋭意検討し、近い将来、会員の皆様にご報告できるように努力を重ねることで合意しました。各委員会とも既に活動を始めています。嬉しいことに、その第一弾として研修委員会から「オンライン協同学習カフェ」が提案されています。興味のある方はご参加ください。

新たな時代の幕が上がりつつあります。この新しい時代を会員の皆様と一緒に切り拓いていきたいと思います。今後とも、日本協同教育学会の活動にご理解とご支援をいただけますよう心よりお願い申し上げます。

日本協同教育学会会長　安永 悟

第17回全国大会開催校からの便り

会員のみなさま

第17回全国大会開催校の比治山大学でございます。先般のニューズレター第56号にて第17回大会の延期をお伝えしてから、早や3か月余りが経ちましたが、依然として、会員のみなさま方におかれましても、コロナ禍による厳しい対応を迫られていることと存じます。本学とて例外ではなく、先行きが見えない中での授業、学生指導、学校行事等々に日々追われ、疲労困憊ムードが漂っております。しかし一方で、この未曽有の事態をきっかけに、ICT技術の活用等を含めた授業運営の在り方をより真剣に模索する機運が全学で高まりつつあります。災い転じて福となすよう、教職員一丸となって、前向きに、この事態に取り組んでいけたらと思っております。

さて、我が比治山大学・比治山大学短期大学部では学園創立80周年の記念事業として、2021年4月に新校舎が落成の運びとなる予定です。新校舎では2階フロア全体をラーニング・コモンズとして設計し、本学がこれまでに蓄積してきたアクティブ・ラーニングのノウハウとICT技術をつなげ、次世代型の教育を推進し、学生の多様化する学びに対応できるよう、現在整備しております。来秋は、この新校舎において、会員のみなさまの日ごろの研究成果を発表していただけるよう、事務局として全力でサポートする所存です。引き続きご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

人類がこれまで幾多のパンデミックを乗り越え、変革と発展を続けてきたように、私たちもこの先を見据えて、今は多くのことを学んでいく時期なのだろうと考えております。本学では現在、Google Chat等を使い、全学単位での情報交換やデータの蓄積を行っているところでございますが、来秋に本学で第17回全国大会が開催される折には、各校での取り組み等も、ぜひご披露いただければと願う次第です。

第17回大会
実行委員長　佐々木 淳
実行委員　山﨑 真克
九内 悠水子

「オンライン協同学習カフェ」　タイムテーブル

時間	内容	技法
15分	趣旨説明（ねらい、見通し、注意事項）	
15分	ウォーミングアップとZoomの操作練習	TPS
15分	チェックイン：グループ作り（自己紹介＋α）	RR
10分	休憩	
20分	話題提供（野上俊一）	
10分	グループで感想の共有、おたずねを考える ⇨個人思考＋RRで共有＋チャットに	RR
10分	質疑応答（チャットにあるものを拾って）	
10分	休憩	
20分	情報交換（こんなことしてみた、体験した、困った、他） ⇨個人思考＋RRで共有＋特派員（他のグループへ）	特派員
15分	まとめ、評価（投票機能）	
10分	チェックアウト	

「オンライン協同学習カフェ」を開催します

新型コロナウィルスの感染拡大予防の観点から、今年度、大学等の高等教育機関では対面での授業ではなくインターネットを使ったオンライン授業を実施することが一般的になっています。突然の授業形態の変化に対して、これまで通りの協同的な授業をすることができなくて困惑したり落ち込んだり、一方で、そのような状況の中でオンライン授業でも協同的に学ぶ方法を試みたり考えたりしている会員も多いと思われます。そこで、会員同士でオンライン授業における協同学習に関する経験や試みなどを共有する場として「オンライン協同学習カフェ」をZoom上で開催することにいたしました。

初回の「オンライン協同学習カフェ」（タイムテーブル参照）では、野上俊一氏（中村学園大学教育学部）にZoomを用いた協同学習の実践について話題を提供してもらいます。野上氏はLTD型の授業（野上、2019）を実施しており、コロナ禍においてZoomを使うことで授業はどうなったかを中心に小講演をしていただきます。この話題の前後では協同学習の基本技法である「Think-Pair-Share」や「Round Robin」を用いて、参加者同士の意見交流や話題提供への質

JASCE

問作り、参加者のオンライン授業での取り組みやエピソードの共有する時間を設けます。「カフェ」ですので、肩肘張らずお手元にドリンクを用意してご参加ください。

開催概要は以下の通りです。なお、今後2～3ヶ月ごとに1度のペースで「オンライン協同学習カフェ」を開催する予定です。

日時：2020年9月12日（土）
14：00～16：30
場所：Zoom（下記URLから申し込んでください。9月8日頃、「招待状」を送付します。氏名、メールアドレス、所属、電話番号、会員番号の登録が必要です。）
申し込みURL：
https://kokucheese.com/event/index/600316/
申込締切：9月6日（日）21時
対象：会員限定90名まで
※本年度の会費納入を確認の上、申し込んでください。
参加費：無料
話題提供者：野上俊一（中村学園大学教育学部）
内容：テーマ「協同学習on Zoom何ができるのか」他、協同学習の基本技法をZoomで体験、参加者間での取り組みの共有
問い合わせ先：研修委員会
（kenshu@jasce.jp）

学会刊行物の引用に関して

協同教育学会が学会として発行している著作物（学会誌やHPで公開されている「関根廣志の研修資料」「協同教育実践資料シリーズ」、ならびに、ニューズレター）からの引用を行う際には、一般的な学術雑誌からの引用ルールに従ってご利用下さい。特に、学会HPで公開されている著作物に関しては、文献情報の記載がある場合はそれを用い、文献情報がない場合はHPアドレスと情報取得日をその他の引用情報に加えてご記載ください。

『協同と教育』への投稿募集中

『協同と教育』への投稿を随時受け付けています。投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常数ヶ月以上を要します。学会機関誌『協同と教育』第16号は2021年3月発行の予定です。みなさまの積極的な投稿をお待ちしております。

学会ワークショップについて

今年度の学会主催ワークショップについては、当面中止といたします。ワークショップの性格上、濃厚接触のリスクが高い活動を伴いますので、苦渋の決断をいたしました。

ワークショップ再開の時期につきましては、研修委員会で慎重に検討の上、改めてご案内させていただきます。

各地の研究会・勉強会

（大阪地域）
協同学習を用いた看護教育研究会

◇コロナ禍により対面授業からオンライン授業へ、対面授業時はマスク・フェイスシールドの着用・徹底した手指消毒・使用物品・環境の消毒・・・etcと、別世界化した教育現場で先生方が奮闘される中、大阪地区の本研究会も「3密を避けた感染防止」のため、やむなく休会続きとなりました。

コロナ禍第2波の状況を鑑み今後の方向性を検討するため、8月8日に2時間のオンライン研究会を試みました。看護系の異なる教育機関（専門学校・5年一貫校・大学校・公・私の大学）に勤務されている方を招待して、オンライン授業の現状、工夫点や課題などを情報交換しました。参加者の皆様には「有意義な時間になった」との感想をいただきました。

今後の予定は、9月にオンラインでの勉強会（講師：中村文子先生）を開催致します。また、本研究会に登録されている方に、「オンラインでの研究会開催へのニーズ」をアンケートでお伺いして、今後の企画・運営に活かしていきたいと考えております。ご協力を賜りますよう宜しくお願い致します。

連絡先：緒方巧（梅花女子大学看護保健学部・非常勤講師
t-ogata@baika.ac.jp）

その他、各地の研究会や勉強会については、新型コロナウイルスの影響により、延期や中止の検討または決定を余儀なくされています。詳細は各会の代表者に直接メール等でお問い合わせください。

出版情報

教育効果を可視化する学習科学

本書によって、ジョン・ハッティのいわゆる「可視化された学習」3部作の邦訳が完結しました。教師と生徒に必要なのは、教授方法や学習環境だけでなく「学ぶことの本質」への理解です。メタ分析データと学習科学の知見を照合し、身近な31のテーマで、学びの成立と促進の条件を浮き彫りにします。ジョン・ハッティ、グレゴリー・イエーツ著。訳者代表　原田信之。水野正朗・津田ひろみ・笹山郁生・高旗浩志ら10名が翻訳に参加しました。北大路書房。

JASCE

ショートレター　会員からの投稿記事

新型コロナと f2fコミュニケーション

協同学習では、学びに際して「それぞれのメンバーが首尾よく課題を達成できるよう、お互いに頭と頭を寄せ合い、膝と膝をつき合わせた活動」をどう工夫するかに留意してきました。したがって、三密を避け、社会的な距離をどのように確保するかに悩まざるを得ないという、昨今の新型コロナのもたらした事情は、私たちにとって残念な状況という他ありません。

こうした三密を避けた授業、オンラインでの授業を進めなくてはならない中で、目指す目標がどこまで達成できるのかという点もさることながら、何に不自由し達成できないことは何なのかについて、これを機会に意識して考えてみることが大切かもしれません。なぜなら、私たちが協同的な学びの基本的構成要素としてきた、他者との直接的な相互交渉の重要性が逆照射されることになるからです。

実は、新型コロナによって招来された、人と人とがf2f（face-to-face）で密接に関わる機会を失わせる状況は、過去数十年の間に科学技術やICTの急速な進歩によって、じわりじわりと社会の中に広がってきたことでもあるのです。たとえば、電話（これも今では「固定電話」と断る必要があります）が広く一般家庭に普及する1960年代以前は、離れている人とリアルタイムで言葉を交わす手段は皆無でした。つまり、それまでの他者との関わりのほとんどは、対面しての直接的コミュニケーションだけだったわけです。ご承知のごとく現在はその多くが、PCやスマホによるメールなどの間接的なやり取りにとってかわられています。この文明の利器は、それまで直接的な交渉でなければ埒のあかなかった多くの伝達を、文字でのやり取りを中心とした、間接的なコミュニケーションですますことを可能にしたのです。

しかしながらこうした間接的な対人行動は、直接的コミュニケーションと比べると、多かれ少なかれ非言語的な伝達手がかりを欠くことになります。私たちは会話に際して、相手の表情やしぐさ、声色などによって言葉の意味を確定するのですが、文字だけのやり取りではそうした手がかりが得られません。私たちは日常生活において、他者との直接的、対面的な相互作用を通して、相手がどのような感情を抱いているのかを推察し、自分に対して何を望み、どんな行動を期待しているのか読み取る社会的スキルを身につけてきました。そして、そうした過程で、自分とは何かを知ったり、自分とは異なる相手の存在を認め、受け入れたり拒否したりすることを経験していくわけです。

このように、対人関係能力や社会性は、他者との直接的な関わり、すなわち直接顔と顔とをつき合わせた具体的な相互交渉の中でしか形成されません。ところが、新型コロナだけでなく、ここ数十年間の間の対人関係行動の側面についてみると、私たちの社会というのは、人と人とが直接顔を合わせずとも用が足りてしまう方向で変化・発展を遂げてきたのです。

ところで、仲間と力を合わせて一つのことをなし遂げたり、情報を集め協力し合って活動するといった社会的スキルは、生まれつき身についているわけではなく、学習によって獲得されます。人間はアリストテレスのいうように社会的動物ですが、生まれついた時から社会的動物であったわけではないし、人間なら誰しも自然に社会性が身につくというわけでもありません。

このように見てくると、生身の直接的な対人関係を経験させる場という意味において、学校は今、これまでになく重要な役割を負っているように思われます。

コロナ感染対策下におけるこのところの教育を巡る議論を聞いていると、デジタル対応の遅れであるとか、オンラインやリモートでの授業をいかに効率良く進めるかの話題に終始している感がありますが、オンライン・ソフトやデジタル・デバイスを駆使したとしても、体験・実感することのできない社会的関わりとは何かについても、充分心に留めておく必要があるでしょう。

（南山大学名誉教授
石田裕久）